

様式1 (研修の概要)

平成22年8月31日

東京大学大学院 人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

長濱祥子  
国文学研究室  
修士三年  
推奨プログラム

Un été à l'ENS (ENS 夏期講座)

4. 様式1 (研修の概要)

(1) 派遣先の研修プログラムの基本情報

フランス・パリ・パリ高等師範学校・Un été à l'ENS (ENS夏期講座)

(2) 派遣期間

平成22年7月16日出発、8月9日帰国、総数25日

(3) 研修スケジュール

授業	F L E (français langue étrangère)	Philosophie	
(和名)	外国語としてのフランス語	哲学	
	Littérature	Atelier d'analyse filmique	
	文学	映画評論	
行事	Soirée d'ouverture	Soirée internationale	Soirée dansante
(和名)	開校パーティー	国際交流パーティー	ダンスパーティー

様式2 (自己評価日本語版)

平成22年8月31日

東京大学大学院 人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

長濱祥子  
国文学研究室  
修士三年  
推奨プログラム

Un été à l'ENS (ENS 夏期講座)

4. 様式2-1 (自己評価日本語版)

(1) 当初の計画の概要：

将来的に日本文学をフランスに発信するために語学力の向上のために参加した。短期間ではあるがフランスの大学で講義を聴き、文化に触れ、語学の実用性を身につけることを目的とした。また、修士論文執筆のため、発表や講義などから、フランスの明解な論理構成等についてもあちらで学習して、機会があれば自分の研究に取り入れたいと考えた。

(2) 実際に達成された成果：

発表や発言を求められる機会が多く、フランス語を聞く能力と、その場で意見する技術が身についた。日本では文法中心の書くための学習が主な方法となっているが、語学を学ぶ上で最も必要なのは生身の人間と対話することである。今回、15ヶ国を超える様々な国の学生と意見交換する機会に恵まれたが、そこでは各国が抱える問題や歴史的背景などを背負った発言が次々に繰り出されるので、世界の歴史や政治の問題や現在の経済状況などに疎いアジアの島国の学生にとって発言の難しい場面もあった。今回は特にヨーロッパ諸国からの参加が多かったが、彼らはお互いに文化や歴史の問題をある程度共有しているが、アジアという地域はいまひとつヨーロッパに匹敵するような大きな文化圏を形成するまでには至っていない(あるいは文化圏は形成できないかもしれない)という現状を実感した。

(3) 感想：

「中国の纏足はエロティックなイメージを内包するという心理分析の結論」があり「『サンドリヨン』のガラスの靴はそれを引用する」という授業内での教授の発言に衝撃を受けた。休日に訪れたギメ東洋美術館では展示品である仏像や壺の横に現代アートである東洋人女性の裸の写真を飾るというプレゼンテーションを行っており、今回の滞在中、私はフランスにおける東洋文化の紹介の方法に疑問を感じ続けていた。概してフランスでは、異文化が紹介されるとき、その

異国情緒を女性的魅力に結びつけたり、あるいは直接的に性に関する文化だけを大きく取り上げる傾向にある。授業内での発言については、その場でうまく反論できない自分の語学力がもどかしく、また纏足の実態についてもそこまで確かな知識を持たない自分が無力に感じられた。語学力とアジア文化の正しい知識の二つの不足は私にとって大きな敗北であった。しかし拙い語学力で「纏足は男性優位の社会的背景から生まれたものであり、エロチシズムにのみ特化した問題ではない」ことを強調した私の意見を教授陣が非常に熱心に聞いてくださり、ときに反論もし、討論をしながらも話し合う時間を持ってくださったのは感動的なことであった。「フランス人があらゆる文化の性に関する部分を殊に強調するのは、キリスト教の抑圧からの解放をそのような形で叫んでいるのだ」と先生は主張されたが、私はアジア人によるアジア文化理解というものをフランスでも広めるべきと訴えた。今様々な分野でさかんにアジアとしての連帯を結束させようという動きが出てきているが、文学研究について考えるとき、東アジア文化圏というものの再形成は可能なのであろうか。いずれにせよ、日本人による日本文学の解釈をフランス語で語るようにならなければ真の文化理解には至らないと強く感じた。